



## 「欧州の事例共有：土地利用と気候レジリエンス」

日時：2026年2月16日（月）15:00～16:30  
会場：地球研セミナー室3・4およびオンライン

### <講演者>

ラレス・ハルバック＝コトアラ＝ザムフィール博士

ティミショアラ・ポリテクニカ大学(ルーマニア)准教授

気候アクション支援センター(SCCA)ディレクター

土地管理、気候変動の緩和と適応、土木工学、自然を活用した解決策（NbS）、そして気候適応戦略への私有地の統合など、多領域にわたる横断的な研究を行い、EUのホライズン・ヨーロッパ・プロジェクト「LAND4CLIMATE」をはじめとする欧州の主要な研究・イノベーション・イニシアチブにおいて重要な役割を果たしてきた。



「土地利用革新のための知の集約プログラム」は、2026年2月16日（月）に、総合地球環境学研究所セミナー室3・4にてセミナーシリーズ第15回を開催しました。ハルバック＝コトアラ＝ザムフィール博士をお招きして、EUのホライズン・ヨーロッパ・プロジェクト「LAND4CLIMATE」など共同研究の成果や欧州における最新の知見をご紹介いただきました。講演後には、地球研の研究者など9名が参加し、多機能なランドスケープ、洪水・水管理、気候レジリエンスといった分野における日本のアプローチとの共通点について議論を行いました。

